

高等部聖書科教諭としての 26 年の退職に当り、お送りくださる生徒の皆さんに是非とも言っておきたいことがあります。それは「言葉を大切にしていきたい」ということです。言葉は人間存在の本質だからです。現在の人類は“*homo sapiens*”と呼ばれますが、これは「知恵ある人間」という意味であり、知恵は「理性」「言語能力」を意味します。人類は理性的言語能力によって自然的本能を超え、文化を生み出し、自然環境を変革し、歴史的世界を形成して現在の繁栄に至っています。

自然的発展は「進化論」によれば突然変異と自然淘汰による長期にわたる遺伝子の変化が必要でありますから、その歩みは遅々たるもので、到底急激な歴史的発展を生み出すことは出来ません。文化的発展は遺伝子の変化ではなく、言語能力による学習活動、つまり先人の労苦の実りを継承することによって可能になります。その継承を土台として更に発展を加えることができるからです。従って文化は言語なしには存在しません。

歴史的な社会において文化は形成されますが、歴史的・時間的には継承、社会的・空間的には交渉、つまり共同体的相互理解が人間文化のあり方です。言語は本来的に意味伝達であり、精神的価値の共有であります。精神的価値は言語によらなければ伝達共有できません。言語は精神から精神へと伝達継承され共有されます。従って言葉は精神的な存在から発せられます。言語は音声や文字など感覚的物質的手段を用いて表出されますが、物質自体は言葉を発することができず、永遠の沈黙に止まります。つまり言葉は自由な精神的な存在、人格的存在としての人間が発するということです。高校生として学習する目的は、真実の言葉を発する能力を獲得することです。

このように言葉という点から歴史的世界を考えれば、人生は一つの言を語る営みです。私たちの存在の全体が一つの言を表現するものでなければなりません。そうでないと人生は支離滅裂な言葉を語るものとなり、無意味かつ破滅的な人生になってしまいます。人格の統一を欠くとき、その人は分裂し自己破壊の悲劇に終わります。それは個人史に限らず、民族史、国家史、人類史に拡大しても同じです。

従って意味ある歴史的社会的形成は、私たちが自己の人格において責任ある言葉・真実の言葉をどこまで語り得るかに懸かっているのです。このような意味で、皆さんは真実の言葉を語り得るように努力してください。青山学院高等部はそのために最適の場です。なぜなら真実の言を語る方、主イエス・キリストを知っているからです。「主よ、わたしたちはだれのところに行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」(ヨハネ福音書第6章)。イエス・キリストこそ、永遠に変わらない真実の言を語り続けた方であり、その目撃証言書が聖書なのです。皆さんのますますの活躍を祈っています。ありがとうございました。

(2010.3.10 於：PS 講堂)